

# 看

# 護師のスキルアップを図るために。

医療技術が日々進歩する中、看護師には知識の更新と高い技術が求められます。ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会では、認定看護師のためのeラーニングプログラムの構築と運営を支援しています。

## 認定看護師の継続教育

日本の看護師は70万人を超える一方で、高度な看護ケアの必要性が強くなっています。社団法人日本看護協会\*は特定の看護分野において熟練した技術と知識を持ち、水準の高い看護や指導ができる看護師の育成を目指して「認定看護師制度」を10年前に発足させました。現在、認定看護分野は17分野ありますが、認定看護師数は全分野合わせて全国におよそ1200人、今後さらに認定分野も人数も増えていく予定です。

多忙な認定看護師を助けるために  
認定看護師の役割は、看護業務の実践・他の看護師の指導・専門的問題の相談業務など多岐にわたり、臨床



現場で働きながら専門分野に関する最新の医療情報やガイドラインを学んだり、学会やセミナーに出席することは、生易しいことではありません。eラーニングプログラムは、多忙な環境にある認定看護師が、好きなときに自分のペースに合わせて学習することによって継続的な自己研鑽を容易にし、より意欲的な取り組みへと向かうことをねらいとしています。

### 2005年より配信スタート

学習コンテンツは、日本看護協会看護研修学校の教師陣が中心となって作成し、モデルコンテンツ「感染管理」分野のテスト配信・評価が2005年4月からスタート。2006年度には6分野での本格配信を目標に進めています。認定看護師の継続教育のためのフォローアッププログラムは初の試みとなるため、現認定看護師はもちろん、認定看護師を目指して勉強している人にとっても心強い学習ツールとして歓迎され、役立っていくことと思われます。

\*社団法人日本看護協会  
1946年、保健師、助産師、看護師、准看護師の有資格者による職能団体として設立され、47都道府県の看護協会が連携活動している全国組織。会員56万人。看護職の資質向上と、人々の健康・保健医療福祉の向上を目指して活動や提言を行っている。

## 緊急災害支援

### 新潟県中越地震

2004年10月23日に発生した新潟県中越地震では、長引く余震やライフラインの復旧の遅れから、被災直後は多くの人が避難所生活を余儀なくされました。病院では医療機器が稼働できず、適切な処置を行うことが難しいという問題もありました。

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会では、医療機関に対して、歯ブラシなどのオーラルケア製品、縫合糸・スキンケアステイプラーなどの医療材料を提供しました。また、水やガスなしで滅菌が可能な滅菌器「ステラッド」を2台無償貸与し、運用のために社員を派遣しました。



ステラッド設置作業

### スマトラ島沖地震・津波

日本のジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会では、ユニセフと日本赤十字社を通じて2,000万円の義援金と、NGOセーブ・ザ・チルドレンを通じて1,600万円相当の製品を寄付しました。日本を含めたアジア・パシフィック地域のグループ各社が行った支援は、現金と製品合わせて約180万ドルとなりました。(2月14日現在) アメリカ本社からは、復興支援プログラムのために200万ドルを拠出し、赤十字社へ66万ドルの寄付を行いました。また約8,140万ドル相当の製品を提供しました。(1月12日現在) 今後も長期的な視野の中で、被災地のニーズに合った支援を行っていきたく考えています。



製品の出荷